

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|---------------------------------|
| 事業所番号 | 4091300089 |
| | 医療法人 社団誠仁会 |
| 事業所名 | グループホーム めおといわ「はなみずき」 (ユニット名 I) |
| 所在地 | 福岡市城南区松山2丁目8番3号 |
| 自己評価作成日 | 平成25年11月24日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------|
| 評価機関名 | 公益社団法人福岡県介護福祉士会 |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F |
| 訪問調査日 | 平成25年12月26日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年4月に開設、同敷地内に診療所・訪問看護ステーション・訪問介護事業所、同建物の1階にデイサービス・小規模多機能施設があり、その2階に事業所は設置している。「一人一人が入居者様の身になって介護サービスを提供する」理念の下、入居者様の立場に立って考え提供する介護を目指している。「閉鎖的にならない環境作り」「日々笑いが絶えない事業所」をモットーに、日々介護に努めている。開設時より4名の入居者様の看取りもさせていただき、地域や入居者・ご家族のニーズに対応できる事業所作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、閑静な住宅地の一角に位置した建物の2階に在る。敷地内には同じ系列の法人である「地域包括ケアセンター松山」、や診療所、訪問看護ステーション、小規模多機能型デイサービスがある。事業所の理念に加え、「利用者の意思・人格を尊重し、利用者様が住み慣れた地域の中で、ありのままの自分として生活できるよう支援する」との法人全体の基本方針に沿って全職員が共有意識を持って実践している。利用者の穏やかな笑顔の中、職員の丁寧な声掛けや対応に配慮がある。併設の事業所等と協力体制を維持しながら、地域包括システムの実現に向けて管理者・職員共に取り組んでいる。地域住民から益々期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|-----------------------|----------------|---|-----------------------|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21) | ○ |
| | | | | | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38) | ○ | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ |
| | | | | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | | | | 3. たまに |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ |
| | | | | | 1. 大いに増えている |
| | | | | | 2. 少しずつ増えている |
| | | | | | 3. あまり増えていない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ | 68 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ |
| | | | | | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ |
| | | | | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | ○ | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ |
| | | | | | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | ○ | | | |
| | | | 1. ほぼ全ての利用者が | | |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所理念は職員の目に付く場所(事務所)に掲示し、全職員で共有している。出勤時職員各自が理念の復唱をし業務に入ることにより「一人一人が入居者様の身になって介護サービスを提供する」理念に基づいたケアを実践している | 理念、基本方針共に法人全体で話し合って作成している。職員は出勤時に事務所に掲示している理念を復唱し就業している。日々の業務の中での丁寧な言葉掛けや接遇は、理念や利用者を尊重する介護サービスの実践が反映されている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近隣への日常的な散歩や買い物の際に地域の方と顔なじみの関係を築いている。遠出の外出の際に地域のボランティアの方に協力してもらったり、敬老会の際に近所にある大学の同好会の皆さんを招き太鼓を披露してもらった。 | 日頃から、敷地内のデイサービスや地域密着型サービスの利用者との交流を図っている。夏祭りの時は、町内会の方と職員と一緒にやぐらを組んだりして、準備を行なっている。最近では地域のダンス教室の子供達が訪れることもある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議においてグループホームでの状況を説明し、認知症の理解が得られるように心がけている。又認知症について困ったことがある時、積極的に相談に応じ、理解を深める機会を作っている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回開催している。家族・近隣のGHや民生委員・包括支援センター・行政関係者などが参加している。入居者の状況や行事などの報告を行い、情報交換を行っている。出席者からの意見はサービスに活かせるようにしている | 運営推進会議には、行政、地域包括支援センター職員、民生委員、他のグループホーム職員、家族代表、利用者、職員も参加している。会議の中で、民生委員から地域のボランティア情報を受けて、利用者の外出支援等に活かしている。また、近隣の方からの介護についての相談に対してアドバイスをすることもある。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議の際は行政職員の参加もお願いし、施設の現状把握をしてもらうように努めている。又不明な点があれば、その都度電話で相談や確認を行うようにしている。 | 2ヶ月に1回、行政主催による「地域密着型サービスの集い」に参加している。また、役所の担当者とは、運営推進会議以外でも、行政が行っている徘徊ネットワークに参加したり、日常的に連絡を取り、協力関係を構築している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 施設内研修で理解を深め、身体拘束や言葉による抑制をしないケアに取り組んでいる。夜間は職員が1名であることと防犯のため、玄関の施錠を行っている。 | 法人内の研修で年1回は身体拘束についての勉強会を行なっている。外部の研修にも参加し、伝達研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は、施錠していない。外出希望のある利用者には、職員がさりげなく見守りをおこない、いつでも一緒に出掛けられるようにしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | カンファレンスの際虐待についてスタッフで学ぶ機会を持ち、職員の意識付けを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修に参加した職員が伝達研修を行うことで全職員が理解できるようにしている。現在は制度の利用者はいないが、必要に応じて対応出来るよう、資料やパンフレットを用意している。 | 権利擁護に関する制度の活用が必要と思われる場合は、主に管理者が対応しており、説明用のパンフレット等を用意している。職員は制度について学習する機会はあるが、すべての職員が理解出来るまでには至っていない。 | 権利擁護に関する制度について周知していくことや、必要な時には速やかに活用できるようになるためにも、学習機会等について、今一度検討することを期待したい。 |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際、重要事項説明書・契約書を読み上げ説明し、不安や疑問点を確認しながら理解を得ている。その際、入退去の不安を少しでも軽減するため、相談やアドバイスを密に行い十分な理解と納得が得られるように努めている | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の来訪の時の声掛けや対応を積極的に行い日頃より家族の来所しやすい雰囲気・希望や意見が言いやすい関係づくりに努めている。家族の意向はケアに反映する体制をとっている。 | 日頃から、家族の訪問時に意見や要望を表出してもらうよう働きかけている。これまでに意見や要望等はでていないが、今後はアンケート等も実施する予定であり、できるだけ要望等に対応していきたい意向である。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月定例のカンファレンスを行い意見や提案を出しやすい雰囲気づくりに努めている。カンファレンスにおいては、運営上の問題点や改善してほしい点を挙げてもらっている。すぐに改善できる点はその場で決定し、その後は状況を見ながら改善を図っている。 | 管理者は、職員が自由に意見が言いやすい環境作り心掛けています。定例会議以外にも、職員からの提案で、洗面所に棚を作ったりする等、サービスに反映させている。業務内容についての変更希望の意見がでた時は、全職員で話し合い、実際の状況を確認した上で、改善している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回の個人面接を行い、仕事の目標や困ったことがないか等聞く機会を設けている。産休や子育て期間中の職員に対し柔軟なフォローが出来ている。又資格取得に対するバックアップ体制もある | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している | 社会参加や自己実現のためのバックアップ体制がある。職員の採用は人物本位で性別、年齢の制限はなく、人柄や性格、グループホームに向いているか等を考慮する。又希望する休日が取れるように配慮した勤務シフトを作成している。障害者就労支援事業の取り組みも行っている | 20歳代から60歳代の男女職員が勤務している。採用時は、介護者としての適性を重視している。職員は、手芸やレクリエーション等、各自の能力を活かして勤務している。また、ケアマネジャーや介護福祉士の資格取得のための休日の調整をはじめ、社会参加や自己実現の機会が得られるよう配慮がなされている。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 常に理念に沿ったケアを心がけ、利用者の人権を尊重する事を指導している。言葉づかいや態度、接し方などにも反映するよう心掛けており、職員には勉強会、研修にも参加してもらい、会議の場で報告し、職員全員が周知している | 法人内の年間研修計画に人権教育に関する内容があり、事業所で伝達研修を行なっている。外部研修に参加した場合も同様に伝達研修を行い、人権教育・啓発活動に取り組んでいる。職員は、利用者の人権を尊重することを十分理解し、日々のケアに反映させている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修の機会を多く確保している。一人一人の力量に応じた育成をしており、外部研修は勤務扱いとしており、職員育成に積極的である。又研修報告や勉強会での個々のスキルアップを図っている | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者は定期的に他事業所の職員と情報交換会に参加している。又運営推進会議にも相互参加をしながら、お互いの職員はサービスの質の向上に努めている | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 傾聴・受容・共感の姿勢で本人の思いや望むことをしっかり受け止めることを基本にケアを行っている。身体面の課題や生活歴から情報を加味し、ケアの状態等客観的に捉え、不安や要望に応えご本人が安心して生活出来るような関係づくりに努めている | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約時より信頼関係の構築に重点を置き、家族の意向や困っていること不安な事なども聞き入れる姿勢で関係づくりに努めていく。又気づきがあれば家族と密に連絡をとり、報告・相談をしながら信頼関係構築に努めている | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前にサービスを受けていた事業所や病院等からの情報提供を基に事前面接を行い、アセスメントを行っていく | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者一人一人の個々の支援を考えて接している コミュニケーションの機会を多く持ち、興味のある物を見つけ一緒に楽しむ時間を多く持つようにしており、入居者の視点に立ち支援を行っている | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の日々の面会や運営推進会議・イベント参加を声掛けし、共に本人を支えていく関係づくりを築いているおり、定期的な外出・外泊や定期的な来所などのご家族も多い | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 散歩に自宅前の公園や商店街を散歩コースに入れるなどしてなじみの場所との関係が途切れないように支援している | 日常的に馴染みの場所や公園、商店街に出かけている。その際、利用者の知り合いに声を掛けられたり、することも多い。自宅への思いが強い方には一緒に見に出かけたり、友人・知人が訪問の際はお茶を出したりして、今後も関係が継続するように支援している。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 距離を置いたり、孤立させないように職員が中に入り会話したり、興味のある物を見つけ一緒に楽しむことによって、入居者同士が関わり合い、支え合えるような関係づくりに努めている | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他の施設・他事業所・入院された方の面会に行ったりし、関係を続けている 又他施設へ転居など退去した後も相談があれば対応できる旨を退去時説明している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 事前面談時や契約時に本人や家族の意向を確認するようにしている又月1回のカンファレンスでスタッフは日々のケアの中で知り得た情報を本人の意向に添えるように話し合い、必要に応じてプランに追加し職員全員で共有している | 家族の訪問時や、友人知人が訪問した時にも、本人の元気な頃の思いを聞いたりして把握に努めている。日頃から本人に希望、意向を尋ねているが、困難な場合は行動や表情から察している。昼間は言葉が少なくても夜間は話してもらえこともあり、思い等を職員間で共有し、検討している。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時、家族や事業所から今までのサービス内容やその方の生活歴や暮らし等生活全般の情報把握に努めている 又日頃の入居者やご家族との会話の中から情報を取り、支援に活かしている | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | バイタルチェックなどによる健康管理や本人の訴え・心身の状態等を日々担当のスタッフは状態把握に努めている。経過記録や申し送り・カンファレンスや日々のコミュニケーションなどで情報共有に努めている | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月に1回カンファレンスでモニタリングを行っている。スタッフ間で意見を出し合い、その方にあったケアプランが出来るようにしている。家族の意見は面会時や電話対応などで得た情報をカンファレンスで共有している。 | 月に1回、職員と計画作成担当者、管理者が話し合っ てモニタリング会議を行い、3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。家族には訪問時に状況の説明をしたり、意見を聞いたりして情報を共有している。退院時や状況の変化があったときは、すぐに介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録は個々の入居者の生活状況・心身の状況を客観的に記録するようにしており、日々の申し送りや連絡帳を通し職員間の情報共有を行って実践や介護計画に活かしている。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 心身の変化時は、近隣の散歩・外出・散歩等を行ったり、ご家族の急な外泊や外出、入院の準備等その時の事情に合わせて柔軟な対応をとっている。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域行事(夏祭り・餅つき・パレードの応援など)に参加して頂いたり、地域と親交を深め、入居者が地域の一員として受け入れられる様努めている。運営推進会議でも地域の民生委員や役員の方の参加をお願いしており交流を深めている。、遠出の外出の際は地域のボランティアの方に協力して頂いた | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 隣接の松山診療所が連携病院であることを説明し、家族はそのことが安心に繋がると契約をされている。2週間に1回定期的に訪問診療で入居者の体調管理を行い、急変時は電話連絡で速やかに対応してくれる。緊急時や不定期の受診の際は必ずご家族へ連絡、意向・希望の確認をした上でやっている。 | 利用開始前に敷地内にある連携医院の説明をしており、かかりつけ医を変更する場合もある。他科受診の際は家族同行としており、困難な場合や緊急時には職員が同行している。受診後は、連絡帳にて家族、職員、医師、看護師間の情報の共有を図っている。2週間に1回の訪問診療では、家族へは電話や訪問時に説明をしている。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 同法人で隣接の訪問看護ステーションと医療連携を結んでいる、一日2回(朝・夕)の定期的な訪問と、連絡すると不定期に訪問し対応してくれる。当施設の看護師と訪問看護ステーションの看護師、診療所の看護師が密に連携を取り合い健康管理に努めている | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は看護添書、生活状況を添書とし持参、職員が付き添い情報提供している。入院中は病院訪問し主治医・SW・看護師との情報交換を行い、退院時はカンファレンスへの参加や面会に行き食事状況を含む生活状況などの情報収集に努めている。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時看取りについての意思を確認し、当施設においてはご希望がある際は看取りの対応も可能であることを伝える。身体状況が変化する場合、家族の意思を都度確認し、医師との連携に努める。看取り期に入るとカンファレンスを開催、スタッフ間で意識の統一を図っている。 | 家族と事業所で看取りに関する同意書を交わしており、家族の心境の変化には柔軟に対応している。研修計画の中でも看護師による看取りについての研修を取り入れたり、かかりつけ医が家族へ直接必要な連絡をしたりして、チームで支援に取り組んでいる。家族が希望する場合は、事業所での食事や宿泊ができる体制を整えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救命救急講習を定期的実施している。勉強会で、急変時の対応や応急手当の方法を実践的に学んでいる。又事故発生時の対応については、マニュアルを完備し職員の周知に努めている。 | | |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 松山包括ケアセンターの全体で外部講師を招いての勉強会や 防災委員会があり、委員会で活動している内容が職員にもカンファレンスで周知出来ている。又年2回(1回は夜間想定)の防火訓練を実施しており、地域の方へも運営推進会議を通してお願い・報告をしている。 | 火災訓練には消防署立ち合いのもと、年2回実施している。スプリンクラーを設置しており、自然災害に対する備蓄もしている。避難活動をする時、一目でわかるように居室入口の大きな名札を裏返すことになっている。運営推進会議を通して、地域住民にも火災訓練の参加を呼びかけているところである。 | 有事の際は、避難活動等をはじめ、人的支援が必要となることから、近隣住民とも一緒に訓練ができるような取組みについて、今一度、検討する機会を持つことを期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 基本理念を柱とした介護、常に入居者の立場に立ってわかりやすく丁寧な言葉で接し、入所者のペースに合わせた見守り・寄り添うケアを行うようにしている。 | トイレの声かけなどは本人だけに聞こえるようにする等の配慮をしている。声かけの仕方等については、人格を尊重した対応になるよう職員間でも注意しあうようにしている。個人情報に関する書類等は、事務所内の鍵のかかる書棚に保管している。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者の意思決定、表現を尊重し、ゆっくり落ち着いた時間を設け、話しやすい環境作りを心がけている。入居者からの希望があればその都度対応し、希望に添えるよう努めている。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 朝起床する時間や入浴日に入浴拒否があったりすると無理強いせず時間を変えたりしている。入居者のペースや体調、生活リズムに合わせてその日の過ごし方を本人中心で送れるように支援している。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎朝整容をするよう見守り、介助を行い、衣類を選ぶ際は、基本ご本人に選んでもらっている。男性の入居者には髭剃りを気持ちよくやって頂けるように支援している。きれいセラピーというイベントを開催、入居者の方が非常に喜ばれた。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 業者(セントラルキッチン)より調理された食事をユニットで加熱したり味付けしたりしている。食事作りは一緒に行っていないが、配膳や後片付け、おやつ作りをおこなっている。食事は職員も一緒に食卓を囲み、談話しながら食事をしている。 | 毎日の食事は法人で一括調理されたものを、事業所で温め直しており、利用者と一緒に盛り付けや配膳をしている。利用者に好みの物を聞きながら、職員と一緒におやつ作り等をする機会がある。食事の際には、音楽を流しており、楽しい雰囲気になるように工夫している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | セントラルキッチンよりカロリー計算された食事が届いており、入所者の状態にあわせ、あらかじめ・ミキサー・トロミ等の工夫をしている。必要な方は一日の水分摂取目標量がケアプランに反映されており、水分摂取量を記入することで、目標摂取量が取れるように努力・評価している。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアを実施している。施行の際は見守り・声掛け・一部介助や全介助等個別に対応している。夕食後は義歯を預り、洗浄剤に浸けている。歯科受診が必要な方は、連携している歯科に訪問診療を依頼している。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンの把握やご本人の排泄状況よりなるべく排泄が自立できるように、促し・介助していく。カンファレンスの際スタッフで意見を出し合い、排泄自立に向けてケアプランや日々のケアに活かしている。 | 排泄チェック表を活用しながらトイレ誘導等の自立支援をしている。リハビリパンツを使用している方で、布パンツとパットの組合せに変更して、トイレでの排泄声かけを行ったところ、失禁が少なくなった事例がある。リビングと居室から近い場所に、トイレを2ヶ所設置しており高齢者にわかりやすく「厠」「便所」と表示している。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事以外、入居者が好むコーヒーや紅茶、夏はポカリスエット等工夫をし、水分摂取に努めている。散歩や体操は日常的に行っている。 | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴の好きな方、嫌いな方がおり、声掛けの工夫をして一人一人ゆったりとした気分で入って頂けるようにしている。嫌がられる方は無理をせず、翌日にずらせたりしている。音楽が好きな方は音楽を聴きながら入浴してもらっている。 | 利用者の希望に合わせて、いつでも入浴できる準備をしている。入浴を嫌がられる場合には、日を変えたり、職員を代えたりして対応している。仲の良い利用者同士で一緒に入ることもある。季節によって菖蒲湯やバラ湯などをしており、楽しみになるような工夫をしている。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の活動量を増やし夜間の良眠に繋がるよう努めている。夜間眠れなかった方や耐久性が無い方等個々の方のニーズに応じ休息をとって頂けるよう支援している。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者の処方薬はお薬手帳、薬剤情報を活用し確認をしている。臨時で処方が出た際は申し送りに記載し情報共有している。服薬介助時は注意点をスタッフで共有し、誤薬が無いように努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴を基本に本人の得意な事や希望されることをレクリエーションや役割の中に取り入れて行っている。買い物やドライブ・散歩など希望時気分転換して頂けるよう対応している。 | | |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩は天候を見ながら日常的に行っている。遠出の外出は入居者のご希望で家族や地域のボランティアの方の協力で行った。 | 日頃から天気の良い日は声をかけて散歩にをかけている。遠出の外出は年間計画の中で、利用者に希望を聞きながら、外食や季節の花見等を行っている。その際、家族や民生委員、近隣のボランティアと協力しながら外出の支援をしている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を預かることは無いが、必要時入居者の必要な物や好きな嗜好品などを、入居者と一緒に行き、事業所立て替えて入居者の方に支払ってもらったりしている。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望時は家族の了解を得て電話を繋いでいる。又ご家族からの電話も遠慮せずにかけても良いと伝えているため、頻回にかかってくる家族も多い。新年には毎年家族へ年賀状を出している。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベランダにはプランターを置き、季節の花を飾ったり、壁に共同作業の時節飾りなど掲示し、季節を楽しむ工夫をしている。 | 広々としたリビングがあり、室内は落ち着いた雰囲気になるよう照明の色にも配慮している。台所と職員が記録する部屋は対面式で、全体が見渡せる造りになっている。利用者と一緒に作った作品、額絵や生花があり季節を感じる事ができる。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファの空間とテーブルの空間があり、どちらでも好きな場所で休めるようにしており、入居者同士のコミュニケーションが取れるようにしている。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の使い慣れた家具や慣れ親しんだものや好きなものを持ってこられ住み慣れた環境に近づけるように家族へ協力をお願いしている。 | 使い込まれた引き出しやタンス等、慣れ親しんだ家具や仏壇なども持ち込まれており、居心地良く過ごせるように工夫されている。ベッドの準備はあるが、畳を希望する場合は、持ち込むことができる。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 玄関から居室・リビング・浴室まで段差がなく壁には手すりを設置、居室ネームプレートもわかりやすく表示し、トイレも居室の近い所に設置しており表示もわかりやすくしている。片麻痺の方や下肢筋力低下の方の身体状況に合わせてベッドの位置やトランスパーの設置など住環境を工夫している。 | | |